

夏の沢旅 谷川編③～万太郎井戸小屋沢右俣～

【報告者】H田

【日時】2019年8月12日 【天候】くもり

【参加者】H田 ほか 会員外2名（リーダー、Fさん）

《コースタイム》

6:11 吾策新道登山口→万太郎本流→井戸小屋沢出合い→12:44 吾妻新道→13:30 大ベタテノ頭→14:40 吾妻新道登山口

《 報 告 》

旅の3日目。最終日に選んだのは、万太郎井戸小屋沢右俣。途中まで、万太郎谷本谷を遡行し、オキドウキョ沢の出合いを過ぎた後、井戸小屋沢出合いで二俣に分岐する。万太郎谷本谷は、谷川岳へ詰めるのだが、井戸小屋沢は万太郎山の山頂近く、吾妻新道という登山道に詰め上げる。井戸小屋沢の途中は、左俣と右俣に分かれていて、どちらも遡行記録があるが、左俣は距離が長いということで、今回は右俣を日帰りで遡行する計画にした。

入渓地点、巨大なスリットダムが現れる。これをくぐるところから、今回の遡行スタートだ。スリットダムの手前は、水深が深く、胸のあたりまで浸かりながら進む。以前、万太郎谷本谷を遡行した経験があるお二人曰く、これでも水が少ない方らしい。人工物を越えると、いきなり広く美しい沢が広がっていた。

万太郎谷本谷は、序盤だけでも想像以上のスケール感だ。渓相は違うが、初めて祝子川を眺めた時に感じたスケール感に近い気がする。圧倒的なのだ。ナメ床や釜の美しさに、言葉が見つからない。滝はそんなに多くないが、この景色を見られただけでも幸せだと思った。記録によく載っているオキドウキョ沢との出合いのゴルジュは、泳ぐかへつって抜けることもできるそうだが、寒くて無理と、右岸を高巻いた。井戸小屋沢出合いまで2時間弱かかった。

井戸小屋沢に入ると、渓相は変わる。川幅は狭くなり、滝が多く現れる。出だしの滝で苦戦する。花崗岩の壁をチムニー登りするはずが、左壁の一部でラバーソールのフリクションが効かず、敢え無くドボン。ロープを出してもらってリトライした。その後、滝をいくつか越えながら遡行すると、遠目に巨大なスノーブリッジが見えた。まさか、もうお盆という時期にこんなものが残っているなんてと驚いたが、幸いその手前に二俣があり、スノーブリッジの下は小障子沢という別沢だと分かり、ほっとした。その後も適度な間隔で現れる滝を、登ったり巻いたりしながら進むと、左俣と右俣の分岐に出た。ここから先は、記録はあるが遡行図はない。ただ、右俣の方に「早く登山道に出られる」とだけある。前2日とも根曲竹の煩く長い藪漕ぎを強いられ、飽き飽きしていたので、今日はなるべく短い藪漕ぎで登山道に詰めたかった。右俣に入っても、しばらく滝が続いた。井戸小屋沢の前半部分よりも、右俣に入ってからの方が脆い岩や滑りやすい岩があり、難しく感じた。それでもなんとかラストの滝を登り、源頭部を詰め上げると、思ったより藪はなく、比較的楽に登山道に出ることができた。見晴らしが良かったので、谷川の山々を眺めながらしばし休憩し、下山した。

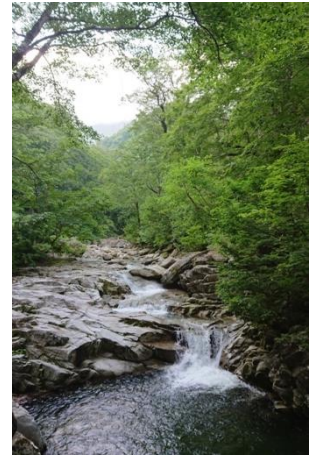
今回の沢旅で、再び訪れたいと思うのは西ゼンと井戸小屋沢なのだが、なぜか一番思い出深いのは南カドナミ沢だったという…。谷川の沢、3本とも大満喫させていただきました。



巨大なスリットダム



水深、胸のあたり



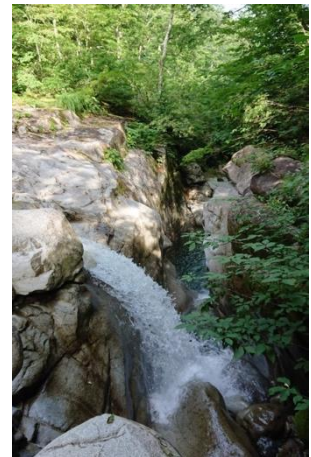
万太郎本谷



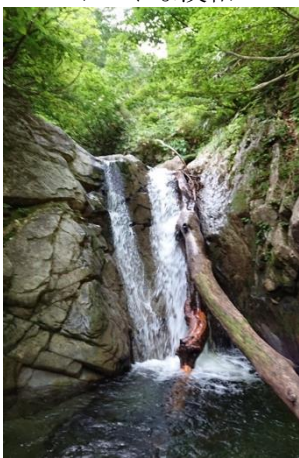
キレイな溪相



万太郎のナメ



オキドウキョ沢出合い



井戸小屋沢の最初の滝



大きなスノーブリッジ



右俣の滝



上から目線



万太郎谷本谷の途中で見える関越トンネル換気口